

廣村、白糸瀧附近圖、六百分の一。
廣村、廣村二十五瀧略圖。
廣島縣、廣島縣史 第一篇、第三篇。
山崎直方編、大日本地誌 卷六。
佐藤傳藏編、大日本地誌 卷六。
藝瀨通志、第三、第五。
吉田東伍、大日本地名辭書中國四國篇。
廣村觀光協會、廣村景勝案内記。
同 小瀧觀音略緣記。
岡信玉三、二級瀧踏査報告(豫報)。
杉岡西隆、廣村景勝案内記。

世界列強の鑛產資源と鑛業政策 (十)

米國地質學者シー・ケー・レース博士著

近 藤 堅 二 譯

第八章 鑛物の將來と

鑛業政策

世界列強の鑛產資源と鑛業政策

此峽の調査に關し、縣岡太課長吉田屬の厚意と廣村の山中、森岡、神谷、大石、野坂、木曾田、杉岡、多賀、小田本、増中、西原、石谷、堀向、畑村、大林、橋上等諸氏の實地指導解説及木曾田、杉岡、石谷三氏の特別なる援助とに對し、茲に篤く感謝の意を表す、此稿は全く以上の諸氏の賜なり。(完)

現 勢

既に前章に於いて引續いて述べたやうに鑛業に於ける顯著な傾向は次に掲ぐるものであるが

順を逐ふて詳述する。

鑛物に對する需要の異常なる擴張は世界列國の間に不均衡に分布する少數の(比較的)大資源からの生産を集中せしめる事に依つて僅に之に應ずるより以外に對策はない。幾千を數へる小規模の鑛業經營は問題とするに足らぬものとして背後に退去せしめられてゐる。

其の必然の結果として鑛物に關する列強の相互依存と或る程度の鑛物の特殊化運動の成長が各國の間に見られるが其の或る物は或る種の鑛物について世界の賄方を作りつゝある。鑛物の消費國に對しては必需の供給を海外に求めんとする傾向が盛であり従つて外國に於ける採鑛は面積も密度も増大してゐる。

少數の大會社で其の中の或るものは國際的規模のもあるが其の通商統制の集中化の結果或る種の鑛物の國家的又は世界的專賣制を達成して居るものや達せんとしつつ其の途上にあるものがある。斯かる統制は特に自然に恵まれた少數

の大供給資源の優越に依つて與へられ且つ導かれたものである。或る種の鑛物は此の傾向が今丁度表れ始めようとしてゐる。一般大衆も此の情勢を認識すると共に國家安定と經濟的福祉を建設するに當つての鑛物の役割を了解し鑛物が消耗財で絶對に複製のさかぬ性質のものなることを併せて賢察して黎明が訪れてきた。

其の自然の結果として鑛業の指導、統制、調節に於ける政府の活動が加速度となり、冗費を除き、能ふる限り鑛物に就いて自給自足策を講じ外國資本の開発を防衛し、平時にも戰時にも必需鑛物を外國に於いて確保する事に努めてゐる。此等の目的を貫徹すべき著しい政治的手段は今迄に完全になつてきて或る國では鑛物の部分的國營化が行はれ輸入税、奨勵金、輸出禁止等の制度を設けて地方的事業の發展を計り消耗財と相續財價の理に基く特殊課税、海外資源開發に對する政治的後援、外國投資に對する防衛、外國の開発事業に對する制限、自國と海外に於

ける鑛業に對する直接の金融上の援助と參加、資源保存的手段、專賣制に近き鑛業に對する嚴密な制限、鑛業の單位化の奨励（商業的合體カルテル、アッソシエーションに依り能率並に資源保存の利益を確保する目的を以つて）等の企劃を行つてゐる。

之を要するに政府が自ら鑛業の統制にまで乗り出してゐる傾向が世界的となつて普遍化して来たことである。

これは恒に國家的動機より出發したものである關係上先づ第一の收獲は世界鑛業の分裂であるが假りに世界の鑛物供給資源と市場が萬國に開放され而かも優良且つ最高能率の資源が最大能力で需要に應ずる際に生ずる單位よりも一層の分離化の程度の進んだ國家的鑛業單位を創設することを主眼とする。然し鑛業の局地的商業結成單一化は屢々他の諸國の單位の合體を促進するのが順序であるし同様に政治的には各處に見られる國家事業の緊密な統制はやがて國際間

の理解となつて表れてくる。

これは超國家的政府の創立に依つて達せられるのではなく門戸開放と開發に關する燃めて多數の條約や了解に俟つものである。

國際的商業合同は相互の統制のための政治的瞭解を遙かに凌いでゐるが斯かる國際間の政治的調節運動は今日までのところでは商業的發展に依る動向に悉く一致するやうに進んでゐる。

未來觀

將來を豫測するに以上概説した政治的傾向が早くも衰滅に向ふやうな徴候は全くないやうに思はれるが唯其の強行力に變化の起ることは免れ難いと思ふ。

鑛物の政治的統制

鑛物の商業的結合が能率と資源保存の必要に迫られて進行すると共に大衆的統制と制限の問題が更らに尖鋭化してくる。若しも鑛業の結成が餘りに進み過ぎるに任せたらば遂に個人的利潤の爲に一般大衆の利益を犠牲にして顧ない

情勢を展開することは明かである。増大しつつある規模のみが大衆をして事業の異常な單位に注意を集中させる役割を演じてゐる。

北米合衆國は獨り法制を設けて此の結成を停止する事に専心努力してゐるが之は資本の自由競争制を保護し且個人的專賣から生れる惡影響を極力防止せんが爲に外ならない。之と同時に商業的單位化運動も急速に進展して其の能率を遺憾なく證明した觀があり今や一般大衆の並に個人的利潤の保存手段として大いに獎勵されてゐる。

此の現勢が繼續して行く時は遂に暴利と浪費的開發に對して保證するための代理器闕として従前よりも一般的制限及び統制を擴張して應用を自在にする事は疑ふ餘地のない事である。然し採るべき手段が悉く嚴禁的のものとはならぬであらう。過剰發展と過剰生産は商況不振、不良勞働條件、冗費と共に多くの原料物質に共通の性狀となりつゝあると同時に、來るべき長年間に於いて此れが重大問題となることは現に

其の徴候が現はれてゐる。

既に或る種の政治的性質の斷言が此の狀況を是正するために行はれ、此等の實効は商業上の單位化運動に刺戟を與へてゐる（原著一三二—三三頁參照）

一般大衆的統制が未だ試驗時代を脱しない間は其の統制の主旨は各州相互間の商業委員會の如き調整的委員會の型式と鐵道及び資源保存委員會の如きものである。

此の方法は鑛業の情勢に依つて特に要求される個人の發議權と收益に對して廣汎な餘地を設けてゐる。

鑛業は急激に浮動し投機的であり種々の變化ある攻究を必要とする試験的餘地がある。

商業的聯合は假令期待されるにしても個人の發議權を封じ込むまでに過度に行はるべき性質のものであつてはならない。餘りに多數の幾千といふ小規模の鑛床と如何なる商業的聯合に依つても統制しきれない未採鑛の地域が廣く残つ

てゐる。如何に有能の人事配置が行はれても官僚主義は容易に總ての才能を動員させる事はできないし假りに出來ても現に個人的利益を中心として動いてゐる遠隔の餘り有望でない利權の採鑛に向つて一般大衆の資金を確保することは不可能であらう。

斯かる大衆的資金を自由に消費せんと試みる大膽なものは官界には一人もない。

今尙ほ未解決の儘で残されてゐる問題は如何なる調整器關及び政策が這般の形勢に適合したものであり、且つ實際問題として此の種のうちの何れが將來に具體化するかといふことである。

既に或る方面からはエネルギー資源として石炭、石油、天然瓦斯と、水力電氣の國營化の要求が興つてゐる。

諸外國に於ける事業の國家經營化運動が盛に擴大しつつある事は自ら之が原動力となり該問題を北米合衆國にまでも持ち込んでゐる。此の

要求は到底成功しさうにもないが、それは全く商業的行爲を無視した立場からの盲目的反對と固執に依るものである。これを回避する絶好の機會は既設の組織を賢明に發展せしむる事であり即ち、公衆の監視の下に商業統制を集中するのであるが、之に依つて個人の發議權を認めると同時に斯くして得たる權力は個人的利得の念を離れて公衆の利益に使用されることを保證することになる。

世界的事實制の政治的統制なる問題と國際的規模に迄發展せる大單位の鑛業の統制を解決すべき對策に就いては從來から未だ極めて僅かしか手がつけられてゐない。

斯かる大單位鑛業が戰時と平時を通じて如何に脅威に値するものであるかは其の將來に於ける發展に關する國際的討論として既に現はれてゐる。

世界的生産過剩の問題も亦當面すべき問題である。

此等の問題に對する關心は從來は國際間に跨つてよりも寧ろ一國に關してのみ向けられてゐた傾向がある。

此等の商業的並に政治的專制の原動力は殆ど例外なく或る一國に貯えられてゐる。此の活動は國境を超えて放たれるが故に他國の法律に違反せざる様に調節さるべきであるが此の全活動に對する政治的管理を行つてゐる國は一つとしてない。銅輸出業組合、硫黃輸出組合、獨佛加里結成、智利硝石生產業、大英國の錫鑛業、數多の大石油會社等の外國の活動に對抗する政治的統制は何處にあるか。

歐洲に於ける大陸鋼鐵條令及び其の他、國際的カルテル及び聯合の政治的統制の問題は、既に此等が効果的に發展する重大な障害たることを明かにした。國際間に於ける此の種の團體活動が能率的に差別的でない限り國際的統制の急速な要求は起らない。然し從來屢々此等の特權を法外に苛酷に行使したが爲めに其の將來に對

する無制限的活動への根強い恐怖と純然たる國家的統制の擴張のみで果して問題が解決するや否やの危惧の念を惹起せしめてゐる。世界的の主張としては、恐らく此等の必需的商品の賄方は外國への活動に於ては一國の政治的政策と野望を反映するよりも一種の集中的の政治的統制の下におくべきであるといふのである。

資源保存。資源保存の名に於ける將來の法制は結局、如何なる程度まで個人の利潤に委ねべきか又州又は政府の分擔とすべきかといふ考察を内容とするものになる。

先づ事業の單純化は保存問題に於ける第一歩である事、從來の進展の示す程度に據れば單一化運動の統制の下に於てのみ資源保存の重要手段が可能となるといふ事等は一般に異論のないところである。或る資源保存論者は直接政府の統制のみが望ましい結果を招き得ると信じてゐる。然るに他の論者は資源保存なるものは若しも政府が商業上の單純化を許容し保護獎勵す

るやうになれば所期の目的を達し得るであらうと信じてゐる。

資源保存は他の鑛業發展の相と同様に數限らない種々の發議權と迫害を必要とする。斯くして個人の資本に依つて得た資源保存の成果は、既に事業の裡に發生し且つ深く根差してゐる方法の繼續を擁護する様に見えるが之は政府の統制を單に個人の努力の及ばぬ時を保證する援助として補助的に引用する概念を以つて該方法が進み得る限度を知らんがために外ならない。然し石油鑛業は長らく浪費的にして且つ混亂な状態を續けてゐるが、大衆の忍苦を全く消耗し該問題の解決として理想とされてゐる直接的大衆的統制型式に導かれてゐる。

鑛業稅。鑛物の輸入稅は廣汎な視野と變化を以つて現れてゐる。此の稅は國有の鑛產資源地は何たるを問はず、之を最も利潤化せんとして國家が専ら自己利益の立場から課稅するのである。世界大戰後に於ける國家主義の勃興に伴ひ

特定の國家並鑛物に就いては何等の擁護をもない極端な處まで行くのは怪しむに足りぬ。斯かる賦課稅は遮ぎられつゝあるし且つ多少外されてゐるが依然停止される迄には至らないのは地理的分布に依つて決定的な鑛物の國際間に於ける大流量である。

列強は新しい規模に於て需要される鑛物に就いて眞に相互依存の關係にあるといふ事實を認めてゐる故その論理的結果として此の不可避な事實に對して國家を調整して行くためには自ら賦課稅を檢閲せねばならない。

例へば我が北米合衆國は鑛物供給に於ける過剩と限界について檢閲をすべき時機にある。

即ち不足せる鑛物は外國資源より仰いで恒久的に其の流入量を貯藏すると共に過剰せる鑛物は外國へ放出し之が處分を賢明に援助する事である。我が北米の鑛物稅は自國に於ける鑛物產出の可能を信じて餘りに樂觀主義に走るが爲に基くものもある。之は浪費と激怒を誘發し、海

外に於て礦物を獲得し且つ之を處分する上に必須な國家的活動に障害を與へることになる。

既に多數の國家又は國際的機關に依つて叫ばれてゐる輸出税に對する抗議は益々擴大されて行くやうである。

此等の税は場合に依つては世界の他の地方に於ける供給資源地の發展を促進せしめ且つ輸出量を差控へておくために低減されることもあらう。

然し世界需要の礦物にして一國乃至數國の獨專的支配にあるもので且つ他に保留的資源がない場合には恐らく必須の原料物質の過剰な割け前を集積して爾餘の世界列國を維持せんとする或る一國に多大の國際的重壓が加へられることになる。海關税其他の課税額を使用して局地的に熔鑛爐、精練所及び製造工業の建設に對する政府の努力は屢々其の豫定計畫に缺陷を示し莫大な經費を投じて僅に局所的收獲しか擧げてゐない。要するに將來は高度に不均衡な地理的

分布に依る礦物の供給といふ世界的情勢に適するやう漸次に礦物課税の統制が行はれることにならう。政府の奨勵金、海關税、其の他補助的課税機關としての種々な機構についても同様のことがいへる。

さればと云つて此は無拘束な自由交易に對する抗辯ではない。經驗の示す處に依れば經常費の標準を繰下げ歳入を潤澤にして健全な鑛業を創設する上に保護政策の有利なことは充分證據立てられてゐる。防衛的な條約は決して鑛產資源の天然に於ける分布に變革を與へることは出來ないし且つ何等創造するものゝないことは經驗の示すところである。

課税問題。鑛物の課税の混亂狀態には或る秩序と洞察を誘導すべき現況にある。種々異なる局地的課税機關と州政府及び聯邦政府に依る課税樣式の差異に依つて其の處理は極めて不公平なものが多い。鑛物を消耗財とする原則は合衆國に於ける過剰な局所的課税の根據として屢々使

用されてゐるが、同時に聯邦政府に依り收入税から鑛物を除外する口實ともなつてゐる。英國式の收入税則に依れば消耗財の原則は認められてゐない。課税の全般を視るに大衆は明かに鑛物を特殊な範疇に屬する財と見做してゐるが此の範疇の性質に就いては考察は區々で混亂してゐる。課税問題は本章に論じた其の他の全政治問題に密接に事實上包含されて居り、何等かの統一ある公正な根據に基づく解決は、資源保存問題に採用される一般大衆的政策、鑛物の大衆的統制、國際關係によつて早晚決せらるべきものである。(未完)

新著紹介

○中國南洋交通史

馮承鈞 著
商務印書館發行
定價 一元七角

この書は文化史叢書の第一輯で王雲五と傅緯平二氏が主編者である。邦貨一回七十錢、四六版二九六頁である。文化史叢書は二十種もあるうちで、この交通史は面白い、漢代印度

新著紹介

に達した航路とか法顯の歸航の路とか常駿が赤土に使した航路、さては賈耽の廣州通海夷道などすべて我國では藤田豊八博士の東西交通史研究南海篇の所論をはじめ、Rockhillの趙汝造の諸蕃志等の外人の研究をみた上で、支那の地理學者の考説を披擲したものである。

漢時の交通黃支國のごときは新しい説でもない同時に己程不國などの説明も欠けてはゐるから、漢代の地理研究として之をみた時には、十分な考證であるとはいへない。けれども本書はさうした細部の問題を取り扱つたものではなく、主として日、西諸家の今日迄の學説を網羅し、上篇は漢から明代鄭和之下西洋に止まり、下篇に於て二十四史に見えてゐる南洋諸蕃のすべての文書を集輯し、其地名に羅馬字で假名がついてゐるといふ便利さがある。従つて支那人の南洋航海に關する一般概念を得るために本書程便利なものはない、一々の考證に若干の寸隙があるにしても、我等はまづ本書によつて手がかりをつかむことが出来る。ことに漢文であるから、簡單明瞭に記されてゐるといふ長所もある、讀者のこの方面の研究家に一讀をすゝめる。(藤田)

○増補日本民家史

藤田元春 著
刀江書院發行
特價 八圓

本書第一版が世に問はれて既に十年の星霜がたつた。其間民家研究は一部の流行とでもいふべく、各地誌類に民家を記さないものはないやうになつた。本書はその増補版として凡そ百五十頁程の論文を加へられたが、その中に遠江池田庄の